



はるかぜ図書館だより

つくば国際大学東風高等学校 図書館 2019年1月発行 No.9

みなさん、こんにちは！2019年が始まって、あっという間に半月以上が過ぎました。遅くなってしまいましたが、今年もどうぞよろしくお願いいたします。

みなさんは、今年の目標など決めていますか？わたしは学生の頃を思い返してみると、毎年年初めには何かしら目標を決めていたように思います。常にその目標を念頭に置いて行動していたわけでもありませんが、ふとした瞬間に思い出して、自分の言動や生活態度を見直すひとつの機会になっていたように思います。みなさんも、小さなことでいいので目標を立ててみてはいかがでしょうか。

十二支の由来について知っていますか？

子, 丑, 寅, 卯, 辰, 巳, 午, 未, 申, 酉, 戌, 亥。

今年は亥年、十二支の中で十二番目の動物になります。この十二支の順番について、疑問を持ったことのある人はいるでしょうか。もしかしたら中には、犬がいるのになんで猫はいないんだろう？と考える猫好きの人もいるかもしれません。この十二支の順番や動物の種類に関しては様々な説があるようですが、広く親しまれているお話をひとつご紹介したいと思います。

それは大昔に神様が動物たちに「一月一日に、一番から十二番目までにきた者を一年交代で動物の大将にする」と言ったというお話です。その話を聞いた動物たちは我先にと神様の元を目指しました。そして到着した順で動物が決められていき、十二支となったそうです。この順番を決める際のエピソードとして面白いのが、猫は鼠に嘘の日にちを教えられたため十二支に入れず、怒った猫は今でも鼠を追いかけ回しているというものです。他にも、仲の良かった犬と猿がゴール直前に喧嘩を始め、それが「犬猿の仲」という仲の悪い者同士を表す言葉の由来となっているというものもあります。ちなみに、なぜ足の速そうな猪が最後になったのかというと、猪突猛進過ぎて止まることができずゴールよりもずーっと先に行ってしまう、戻るのに時間がかかったから…というエピソードがあるようです。

もちろんこれは物語で、国や地域によって違いがあります。そもそも、本来十二支は中国から伝わったもので、実際は動物でもなかったそうです。世界各国の十二支がどのようになっているのか、調べてみるのも面白いかもしれませんね。きっとその国の文化ならではの考え方が見えてくるはずです。

今月のおすすめ

変身 著：東野圭吾

世界初の脳移植を施され、一命を取り留めた青年・成瀬純一。ささやかな日常を取り戻した彼に異変が訪れる。凶暴化する性格、変わりゆく才能…。自身の変化を止められない純一は、移植された脳の影響を疑う。やがて脳の持ち主（ドナー）の正体を突き止めるのだが…。

臓器移植によってドナーの人の記憶や思考が受け継がれることは実際にあるのか、疑問に思ったので調べてみると、大なり小なりそのようなケースは現実にも多々あるようでした。この小説の主人公の場合は、自分の意思に反して自身が変わって行ってしまいます。その臨場感が恐ろしく、読み応えのある一冊です。

I Love Youの訳し方 著：望月竜馬

100人いれば100通りの表現方法があるのが日本語の面白さかもしれない。「愛してる」なんて言葉を使わなくても、想いは伝えられる。日々言葉に向き合っている作家たちなら「I Love You」の一文を一体どのように表現するだろうか。

小説や詩などの作品や、作家自身の手紙の中から選りすぐりの100フレーズを紹介。きっと、普段何気なく使っている日本語が、今よりもっと好きになるはず。

夏目漱石が「I Love You」を「月がきれいですね」と訳したのは有名な話ですね。それで自分の想いが相手に伝わるかどうかは疑問ではありますが、漱石のその発想と感性はとて素敵だなと思います。ぜひこの本を読んで、言葉の美しさと作家の感性に触れてみてください。

新着図書のご案内

みなさんからのリクエストを基に、95冊の本を購入しました。

昨年話題になった本もたくさんありますので、

ぜひ読んでみてください♪

貸出の際には身分証明カードが必要になりますので、

忘れずに持ってきてください。

